



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第183号

2007年8月22日

みなさん、こんにちは。甲子園もいよいよ終盤ですね。

● スキー人形を作ろう

渡辺うめ人形展関連イベントとして、8月19日(日)うめさんが作っておられた「スキー人形」を作るワークショップが行われました。参加者に材料キットが渡されましたが、服の柄も、雪山を模した木材の傾斜も違うため、どれも同じにはできません。世界にひとつだけの「スキー人形」ができました。髪は黒い服の裏地の糸を抜いて作られています。髪は「さっそうと滑る子どもの元気よさを表現する」ためにわざと乱しているそうです。小さなところにまでこだわりが光ります。



さながらスキー合宿です



体を曲げるときは少し勇気がいります

かなめはスキーのポーズを作るところ。腰や膝を曲げてスピード感を表現します。うめさんの娘さんで講師の石野真菜さんは国体に出場したほどのスキーの腕前だそうで、ポージング指導にひっぱりだこ。直立していた人形がポーズをとると、とてもいきいきし始めました。

● 作って飛ばそう紙ひこうき

8月18日(土)紙ひこうきのワークショップが開かれました。ボランティアさんの指導のもと、型紙に合わせて3種類の紙ひこうきが作られました。完成したら、風船で作った輪をめぐらして飛ばし大会。小さな子は輪のそばから飛ばしていましたが、男の子は部屋の端から助走して元気よく飛ばしていました。よく飛ぶ子には会場の大会議室は狭くて、部屋の壁に紙ひこうきがぶつかっていました。



思い切り
投げてます

「スキー人形をつくろう」は参加者の方々に教え合い、助け合いながら作りました。どの子どもとても可愛くて、完成後は撮影会が始まりました。